

「株式会社 姫路シティ FM21」

第42回 放送番組審議機関 審議会議事録

1. 開催日時 平成22年12月18日(土曜日) 午後3時00分～午後4時30分
2. 開催場所 姫路市本町68イーグレひめじ地下2階 ミーティングルーム
3. 出席状況
 - 1) 委員総数 11名
 - 2) 出席委員数 6名
 - 3) 出席委員の氏名(敬称略、順不同)

| | | |
|-------|-------|-------|
| 井上 重義 | 梅宮 功 | 大谷 昭仁 |
| 衣笠 愛之 | 宮本 節子 | 柳谷 郁子 |
 - 4) 欠席委員の氏名(敬称略、順不同)

| | | |
|-------|------|-------|
| 有馬 妙子 | 岩成 孝 | 金山 光鎬 |
| 岸田 直美 | 福井 舞 | |
 - 5) 会社側出席者氏名

| | |
|-------|---------------------|
| 白井 正敏 | (専務取締役 放送局長) |
| 山南 俊雄 | (常務取締役 営業部長) |
| 小幡 博 | (営業企画 課長 兼 放送総務 課長) |

4. 議題

(1) 放送局長挨拶

4月からディレクターの入れ替わりがあったがよく頑張ってくれている。難聴地域対策としてネット放送を開始した。交通情報の充実ということで、ジャティックと提携して時間も拡大している。再免許については、10月に交付を受けた。

番組審議会についても年6回開くように総務省から話があった。無線技術士の配置についても話があった。当社は2名いるが、適任者がいれば補充したい。

来年は開局10周年である。開局記念式典を8月2日に開催する予定である。8月1日は、開局記念番組として趣向を凝らした番組をやっていきたい。

(2) 平成22年9月度からの事業報告

①ABCハウジング特番について

会場内にリポーターを配置してイベント・放送を実施した。

②FMゲンキゴルフ大会

120人の参加者。スポンサーからプレゼント提供をいただいた。

③相生ペーロン城特番について

相生アクアポリス提供。ペーロン城から1時間の生放送。

特番はスポンサーがないと出来ない。制作費の捻出が必要である。

④県立大学講師派遣

中継の生放送も行なった。

⑤3FM局会議

播磨地域の3局で防災協定を結んでおり、都度都度で会議を行なっている。

加古川、三木。デジタルラジオについての話題。

⑥新年編成

1月1日～3日まで特番編成。録音番組で対応。

⑦香寺高校職業人座談会

1月21日に実施。例年参加している。

5. 審議内容

事務局より資料説明・試聴のあと、質疑応答を実施した。

委員 女性ディレクターが入って、何か変化はあるのか？

課長 主婦のディレクターもいるので、生活情報番組などは目線がしっかりと主婦目線になったと思う。

委員 食育とか健康とかあるが、取り上げるようなことはあるのか？

課長 食事についてはレシピなどの紹介、学校給食の献立や栄養の紹介などを行なっている。

委員 例えば、番組が出て行って、どこそこのイタリアレストランに出て行っ

て、5分間5,000円であげますよと。それでスポンサーを探して姫路の食をPRできればいいのではないかと。もう一つ。10周年のテーマは考えているのか？私案だが、10年間いろんなところでいろんな災害が起こって、そこでラジオが活躍したとも聴いているので、それをテーマにしてはどうか？例えば充電ラジオを姫路の企業で作ってFMゲンキだけ聴けるようにすれば、200-300円で出来るのではないかと。先ほどの県立大学の中継で、アナウンサーが木の葉が散ってなどしゃべっていたが、ラジオなら想像できる。それであれば、姫路の小中学校全員に同じ時間に同じ絵を描かせて、コンクールをすると。そのときに200円のラジオを買わせると。それが災害にも役に立つということをPRすれば、よくなるのではないかと。3万個ぐらいあれば大丈夫。そのぐらいの勢いで10周年を迎えたら、ラジオのよさを伝えられるし、市や市議会も協力してくれるのではないかと。

課長 経費を使って何かをすることを考えていたが、買ってもらうというのは良い。

委員 市や行政に根回しをしていけば、企画になるのではないかと。

委員長 防災に役立つのであれば。

委員 安富でも夢前でもラジオはきけるのではないかと？同じ時間に同じ授業をさせるのは良い。

副委員長 教育委員会が難しいのではないかと。教育委員会は時間とお金を使えないと思われる。

局長 毎年8月にラジオ新聞を発行している。そうしようと思えば、6月に制作をしないといけない。テーマは10年を振り返って今後の展望という形で考えている。市長、自治会長、婦人会長等の座談会などを予定している。その中で、10年の一つのテーマを何らかの形で盛り込めるか、検討したい。

委員 9月1日なら防災の日になる。

副委員長 防災の観点からは、今地デジの普及問題がある。テレビを買い換えないといけないが、独居老人などは買い換えられない。

委員 夢前はCATVなので、ケーブルが切れたら終わりである。

- 副委員長 FMゲンキと姫路市で総務省とかのプロジェクトを取ってくるとかやっていかないといけないのではないかな。
- 局長 テレビのデジタル化に続いて、ラジオのデジタル化も水面下で検討されているようだ。
- 副委員長 先日の講義では、ラジオの音とパソコン・U S T R E A Mの音と同時に流してもらった。遅延があるが、パソコンの音はるかにきれいだった。聴きやすいという意味では、パソコンやデジタルのほうが良いんだろーかと思うが、多様化していることを考えると両方いるのではないかな。リスナーがついていけるかという問題もある。
- 委員長 iphoneとかipodはよくわからないが、学生は関心を持っている。どんな物かと調べると、大変売れていることがわかる。
- 副委員長 ラジオは映像がないというが、パソコンでUSTREAMをみるとスタジオの様子がみえる。学生に聞いても、しゃべっているだけでも画面があるほうが良いという。画面の横にはツイッターの画面もある。昔のラジオの聴取スタイルとは全く違う物が現れている。その反面、高齢者に対する優しさも必要である。提案だが、公民館の取材をしているが、そこにラジオをおいてもらうことは可能かな？
- 課長 基本的にFMゲンキが聴けるようになっている。難聴地域ではアンテナ工事までやっている。ただ、日常的に使う物ではないのでしまわれてしまっている可能性もある。
- 副委員長 公民館にむけて同時放送というものあるのではないかな。
- 局長 公民館は1年に20ヶ所以上回っている。来年からは倍のペースで回ろうと考えている。姫路市のほうから予算面で厳しい事を言われているが、その改善策として公民館の回数を増やすことを考えている。
- 副委員長 県民交流広場事業に関わっているが、それを活用していただくことも可能だろう。すべての公民館で聴いていただけるような、聴いてもらえる仕掛けがあればいいのではないかな。他所がやっていることは意外に知らない。
- 委員長 防災も何が起こるかかわからない。
- 副委員長 中でも独居老人の家庭にラジオを配ることができないかな。午前中に青山

の人と話したが、4件に1件が独居であるそうだ。何かあっても動きが取れない。姫路市は高齢化率が低いほうだがまわりは4人に1人が高齢者。20年後には3人に1人。現段階でも50代の独居というのは増加している。ラジオを普及させる方策をとらないといけないのでないか。

委員長 ラジオは低価格で提供できる可能性があるので、それらをうまく利用できればいいのではないか。

委員 商工会議所に協力してもらって作ってもらえれば良いのではないかと。

委員 市を動かすのが一番良いのではないのか。ラジオは本当に安い。私も3台ある。2台はもらった。買った物でも1500円ぐらい。市を動かすか、障害者の協会か、自治会の組織を動かしてやっていただく。公に資金を募らないと、個人的には買わない。買ってもらうのは無理。募金を募ってはどうか。お年寄りのためにご寄附をと。ラジオは必要だと思う。いざと言う時には役に立つ。

委員長 うちの父が介護状態だがラジオをよく聴いている。喜寿やらなんやらで記念品がよく来る。それを使えばなんとかなるのではないか。

委員 市から3000円もらえる。それがあれば2台買える。

局長 何か研究したい。

委員 新年交礼会で言えば、いくらでも募金があつまる。

課長 姫路城の募金も集まっているようだ。

委員長 うまい仕組みをつくれればいいのではないか。ところで、女性のディレクターが入ったと言うことだが、パーソナリティの養成は頑張っておられるが、ディレクターの養成はやっていないのか。

局長 パーソナリティ養成とあわせてやっている。

課長 コミュニティの場合はパーソナリティとディレクターを兼任でやっている。GENKIの場合は、分業でやっていたが、流れの中でパーソナリティがディレクター業務も出来るようなしくみを作っている。

副委員長 養成に当たって、地域の自治会から参加者を募ることは出来ないのか。各自治会が自分達でしゃべったり作ったりということができれば、聴く

ことがふえるとおもう。団塊の世代が退職しているが、前期高齢者は動ける人が多いので、そのあたりの人に出てきてもらって、全自治会から1人ずつでも養成できればよいのではないか。

局長 連合自治会は70以上ある。

課長 以前は自治会が絡んだ番組がスポンサー付であった。スポンサーが下りた段階で終わった。

会長 自治会はお金を持っている。

副委員長 退職された方が、カラオケやマージャンなどで人生を謳歌している人がいる。その一貫として番組を作ると言うことがあってもいいのではないか。

委員 頑張っている自治会は皆に伝えたいと思っている。

副委員長 高齢者対策も野里などは古い町が多いから頑張っていると聴いている。それを広めることが出来れば。

委員 番組の枠を売るというPRはしているのか。放送でPRすれば手を上げるという人はたくさんいるのではないか。個人でも商店でも自治会でも。そのほうが手っ取り早い。自治会もいいが、仕事がおおく悲鳴を上げている人も多いようだ。むしろ個人的なほうが良い。もっと少ない枠でいいのではないか。5分とか3分とか。

委員 編集作業は手間がかかるのか？

課長 内容による。取材は時間がかかる。対談は容易である。5分で1万円である。

副委員長 制作にかかる手間は5分でも30分でもそんなに変わらない。色々なラジオ局でもやっているが、いろんな人がやってくると困るということであまりおおっぴらにしていない。

委員 それは企業秘密でいいのではないか。どこを断ってというのは分からない。FMゲンキがセレクトすれば良い。

副委員長 内容が難しいということでは？

- 委員長 インターネットのような状態になってしまう。
- 局長 タイム提供で10枠ほど頂いている。増えてきている印象はある。
- 委員 キャンペーン方々、放送を随時入れていただければ。FMゲンキのテーマソングを創ってはどうか？公募するなりして。
- 委員 有名人を呼ぶのか？だめもとで谷村さんを言ってみようか？
- 課長 3周年は浜村さんをよんで一般公募とした。5周年は、スポンサーや関係者に感謝をするという企画にして、大変好評だった。一般を呼ぶか関係者かとあるが、どちらかと言えば、御世話になった人を招いた会にする予定である。

午後4時30分、以上の報告・討議・検討を終了し、閉会した。

公表年月日 平成22年12月26日

公表内容 審議の概要

公表方法 自社放送17時15分～17時45分「GENKI傑作選」内
事務所据え置き、ホームページ (<http://www.fmgenki.jp>)

以上